

熊本発のおんぶmoccoで みんなを笑顔に

おんぶもっこプロジェクト 田代 健太郎さん
今村 理香さん

熊本・天草に代々受け継がれてきたおんぶ紐「もっこ」を現代風にアレンジし、「おんぶmocco」として広める活動を行っています。



7月16日に開催された大交流会では、お笑い芸人で3児のママである、くわばたりえさんがゲスト登場。多くの方で賑わいました。

笑顔を共有できる「おんぶもっこ」

天草地方で古くから受け継がれてきたおんぶ紐「もっこ」。布団に紐がついたようにつくりで、安定感があり、背負ったときの負担が少なく、家事や仕事に集中できます。高い位置でおんぶができて背負う人の顔と赤ちゃんの顔が近くなるため、密着感と安心感が生まれます。また、肩越しに見える景色は赤ちゃんの脳の刺激にもつながり、心理的にも発達の面でも赤ちゃんにとってもいい影響を与えるという使用者の声もあります。

避難所でも活躍したおんぶもっこ

お母さん達の声を聞きながら現代風にアレンジし、スタイリッシュで使いやすく改良した「おんぶもっこ」は、留め具がなく紐でサイズを調整するため男女関係なく使え、また、子どもが寝たらそのまま降ろして布団にしたり、授乳ケープやチェアベルトになるなど1枚で何役にもなります。

熊本地震の際は、もっこを持って避難された方から、避難所でおんぶしたままトイレに行けたり、授乳ケープとして使用し

たり、とても助かったとの声がありました。また、5〜6歳の子でももっこを使えば体重を分散して楽におんぶすることができたため、不安がる子どもの安心にも繋がったとのこと。そうした声を聞き、地震後に「おんぶもっこ」の無料貸出しをスタート。全国から寄せられた支援や寄付金を活用して運営されています。沢山の支援により、困っている多くの方々へ「支援もっこ」が届けられています。

安心安全へのこだわり

おんぶもっこはSG(安全協会)マーク基準に準拠した試験を受けて製造されています。使用する素材も身体への影響や強度を考え、安心安全が第一。

また、使い方についてもアンバサダー講座を受講したアドバイザーが、赤ちゃんと背負う人の身体の仕組みをきちんと理解したうえで、正しい使い方をレクチャーしています。

「道具としての良さや機能的な部分はもちろんですが、使用の説明をする交流会を開いて子育ての悩みを共有し合える場を作り、みんなが笑顔になれるきっかけづくりとなるのが何よりの願いです。単に物を提供するだけでなく、使い方や購入後のフォローなど、気持ちの面でもサポートしていきたいと思えます」と、代表の田代さんがプロジェクトの想いを語ってくださいました。

